拓水

TAKUSUI
No. 671

9
September. 2012

発行　㈶兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

ベニズワイガニのセリ（香美町香住漁港）

NEWS

平成24年度 豊漁祈願祭 開催

平成24年 兵庫県漁業協同組合長懇談会 開催

但馬地区の沖合底曳網漁業・ベニズワイガニカニカゴ漁 解禁！

海区調整委員会 新委員の顔ぶれ揃う

「平成24年度 豊漁祈願祭」行われる

JF兵庫漁連

今年の豊漁祈願祭（第38回）は、9月12日（水）に姫路市妻鹿漁港にて県下JF組合長、系統団体、行政から約70名が参加し執り行われました。

暑いながらも秋の気配を感じるこの日、朝から会場となる妻鹿漁港荷さばき所には祭壇が設けられ、県下各地から続々と参加者が集まりました。

神事は姫路市白浜町にある松原八幡神社の宮司によって厳かに執り行われ、参加者一同は豊漁と海上安全を祈願しました。

どうぞ良き漁に恵まれますように……

豊漁と海上安全を祈願しました

平成24年 兵庫県漁業協同組合長懇談会 開催
～2つの課題について講演～

JF兵庫漁連

8月8日（水）、姫路市内のホテルにて平成24年兵庫県漁業協同組合長懇談会が、県下JFの組合長をはじめ、行政・系統団体役員ら約70名が出席し開催されました。

懇談会は「水産物と放射性物質について」と題し水産庁 増殖推進部研究指導課 森田 貴己水産研究専門官から、また「漁業再建と漁協の役割 ～国民にとっての漁業の大切さに依拠して～」とし東京大学 社会科学研究所 加瀬 和俊教授からの講演を中心に進められました。

森田専門官からは、放射性物質の基礎知識をはじめとして、我々が抱いていた不安に対し、調査データと科学的根拠をもとにわかりやすく説明がおこなわれました。続いて、加瀬教授からは漁業再建に向け、漁業並びに漁業者・漁協の果たす役割や今後の在り方について講演が行われ、参加された方々は熱心に耳を傾けていました。

講演終了後に、報告事項としてＪＦ兵庫漁連より、平成25年度農林水産施策の推進等に係る政策提案と、JFグループ兵庫県域ビジョンに係るアクションプランについて説明が行われました。

放射能について学びました

加瀬教授の講演

但馬地区の沖合底曳網漁業・ベニズワイガニのカニカゴ漁が解禁！
～但馬地区の各漁港は活気に包まれる～

JF兵庫漁連 但馬支所

9月1日（土）から但馬の主幹漁業である沖合底曳網漁業とベニズワイガニカゴ漁業が解禁となりました。

沖合底曳網で獲られたアカカレイ、ハタハタなどは9月2日（日）朝に初競りが行われ、但馬の各港（津居山・柴山・香住・浜坂・諸寄）は活気に包まれました。沖合底曳網漁では9月～10月はカレイ類・ハタハタ・ノドグロなどを中心に漁が行われ、11月6日（火）に解禁されるズワイガニ、3月～4月のホタルイカなど様々な魚種を対象に来年5月31日（金）まで漁が行われます。

解禁初日のセリの様子

ハタハタも多く水揚されました

また、9月5日（水）には香住西港にてベニズワイガニの初競りが行われました。香住港が近畿圏唯一の水揚げ港であるため報道陣の姿が多く見られ、こちらも活気に包まれました。ベニズワイガニカゴ漁業も来年5月31日まで行われます。

今漁期の操業安全と豊漁を願ってやみません。

平成24年度 兵庫県立水産技術センター研究発表会 開催

8月24日（金）、平成24年度兵庫県立水産技術センター研究発表会が明石市二見町で開催され、関係者約120名が参加しました。この催しは、兵庫県における水産試験研究の最新の成果について分かりやすく発表するもので、同センター見学会と併せて、毎年、夏休みのこの時期に行われています。

研究発表会は、午後から行われ、「試験研究結果報告」として各研究員から5件の報告がありました。（別表参照）

今回の発表はいずれも、これからの水産の技術開発に重要な研究課題で、漁業者や系統団体、行政、市民団体等、会場に詰めかけた参加者は真剣に聴き入り、発表後の質疑応答で多くの意見が交わされていました。

発表会の様子

発表内容	研究者名
いま、播磨灘の漁業や漁業環境に何が起きているのか！	原田 和弘（水産技術センター資源部 主席研究員）
カタクチイワシ後期仔魚は何を食べているのか？	岡本 繁好（水産技術センター資源部 主席研究員）
兵庫県における青のり養殖の試み	川崎 周作（JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 所長）
日本海で獲れるサゴシの特徴と商品開発	岡田 佑太（北部農業技術センター 研究員）
最近の魚病診断方法と注意を要する病気 ～こんな病気に注意してください～	川村 芳浩（水産技術センター増殖部 主席研究員）

（敬称略）

NEWS

今後も様々な水産物をPRしていきます。

～兵庫県 × AEON 食育・地産地消企画～
ひょうごの地魚フェアで“しらす”をPR

兵庫県農政環境部農林水産局水産課

消費者の「魚離れ」が進行し、健康な日本型食生活の崩壊が懸念される中、県民の方々へ兵庫県産水産物を広くPRし、「兵庫の食育」と「兵庫のブランド」の強化を図るため、兵庫県では今年2月に「連携と協力に関する協定」をイオンリテール㈱と締結しました。その地産地消企画第1弾として、JF兵庫漁連の協力を得て、7月28日（土）～29日（日）に県内イオン5店舗で「兵庫県産しらすPRイベント」を実施しました。

28日は漁港より直送の「生シラスの釜上げ試食実演販売」とメニュー提案リーフレットを配布してのPRを実施。試食と合わせ、ひょうごの“みのり”大使「はばタン」と、兵庫県認証食品マスコットキャラクター「ほっとちゃん」の着ぐるみによるPRも行い、子供たちに大人気でした。29日には、釜揚げシラスとチリメンの販売を実施しましたが、大好評で早々に売り切れる店舗もあり、後日、県内28店舗に販売を拡大。大阪の店舗からも声がかかるなど、確かな手応えを感じています。

9月には第2弾としてカゴメ㈱と淡路水交会のご協力も得て、「ハモフェア」を県内イオン28店舗で実施する予定にしています。今後もイオンリテール㈱との協働のもと、兵庫県産の四季折々の旬の水産物にスポットを当て、食べ方の紹介など魚食文化を発信する、地産地消の取組を継続的に実施していく予定です。

「はばタン」と「ほっとちゃん」は人気者！

明石タコつぼオーナー制度の結果
～おかげさまで無事終了いたしました!～

JF兵庫漁連 広報部

来年も多くの“タコつぼオーナー”が誕生し、タコが豊漁であることを願っています。

本年度の「明石タコつぼオーナー制度」は7月30日（月）から4回の引上げを行いました。各日の結果は下記の表のとおりです。今年は昨年よりも漁獲率もあがり、1kg越えのビッグな明石タコもお届けすることができました！

残念ながら1匹も入らなかったオーナー様へは、残念賞として最終日に明石タコを送付いたしました。

日付	天気	漁獲数（タコつぼ223個中）	最大	最小	平均	漁獲率（漁獲数÷223つぼ）
7月30日（月）	晴れ	34匹	1,110g	370g	533,7g	15.2%
8月3日（金）	晴れ	39匹	1,430g	340g	514,7g	17.4%
8月7日（火）	晴れ	43匹	1,200g	380g	574,7g	19.2%
8月10日（金）	晴れ	41匹	1,100g	330g	571,7g	18.3%

※300g以下のタコは放流しました。

ノリ養殖について様々な角度で研修
～平成24年のり養殖技術研修会～　JF兵庫漁連 のり海藻事業本部

松谷社長の講演

9月3日（月）明石市の兵庫県立水産技術センターにて平成24年のり養殖技術研修会が開催され、ノリ生産者・関係者ら約130名が参加しました。この研修会は毎年この時期に、ノリ養殖の持続的発展のため必要な知識技能を習得し、ノリ養殖業の経営安定に資する目的で行われています。加えて今年は、環境に見合った新規養殖の開発によって経営的な安定を目指す意味から「ノリに代わる新たな複合的な養殖」を視野に入れた取り組みも紹介されました。

研修では（別表参照）、それぞれの発表後、質疑応答が行われました。松谷社長の講演では、世界的なノリの消費・生産事情について「国内、海外において兵庫ノリを売っていくには価格競争力の向上は不可欠」とされ、選ばれるノリ作り、コストを抑えた競争力のあるノリ作り、安心・安全のノリ作りを提案されました。他に漁場環境、アオノリなどの新規養殖等についての発表も行われ、参加者は皆、熱心に聞き入っていました。

会場には大勢の参加者が詰め掛けました

題　　目	講師・発表者
平成23年度漁場環境について　（研究報告） ～なぜユーカンピアが多かったのに色落ち被害が少なかったのか～	中谷 明泰（JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 統括代理）
下水道栄養塩管理運転の効果検証　（講演）	反田 實（県立水産技術センター 所長）
韓国など世界的なノリ養殖と流通の現状について　（講演）	松谷 晃（松谷海苔株式会社 代表取締役社長）
海苔養殖漁場の安全対策について　（報告）	西岡 嗣容（第五管区海上保安本部 交通部企画課 課長補佐）
平成24年度漁期に向けた対策　（研究発表） ～今漁期の注意点及び冷凍網の張り替えについて～	川崎 周作（JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 所長）
新規養殖開発について　（研究報告） （アオノリ・湯引きバラ干し・その他）	竹迫 史裕（JF兵庫漁連 兵庫のり研究所 主任研究員）
海苔養殖に向けた情報提供　（報告事項）	遠藤 進（㈳日本水産資源保護協会）

（発表順 敬称略）

大きくなって帰っておいで
～岩屋でマダイの稚魚を放流～ JF兵庫漁連

8月1日（水）、JF淡路島岩屋青壮年部「岩屋はや潮会」が、地元、石屋小学校5年生に「豊かな海づくり」を理解してもらおうと、マダイの稚魚放流を体験学習として行いました。

今回放流したマダイは、2.5㎝ほどの大きさの稚魚を、はや潮会が1ヶ月ほどかけて中間育成し、約5㎝に成長したもので、「大きくなって帰っておいで」と、みんなそれぞれに声をかけながらていねいに放流しました。

今回参加したのは、生徒約50名、青年部メンバー5名。お天気にも恵まれ、貴重な夏休みの体験になりました。地元の漁師さんとのふれあいを通じ、ますます海と魚に興味を持ってもらえることを願います。

はや潮会のメンバーから魚を受け取ります

◀「大きくなって」と願いをこめて……

▶はや潮会の皆様、お疲れ様でした！

海区調整委員会 新委員の顔ぶれ揃う
～知事選任委員 県公館で辞令交付式～

海区漁業調整委員会の第20期知事選任委員の辞令交付式ならびに退任委員への感謝状贈呈式が、9月3日（月）、神戸市中央区の兵庫県公館で行われました。式では、先ず瀬戸内海海区及び但馬海区から知事選任された学識経験、公益代表の委員10名に井戸 敏三知事から辞令交付が行われたあと、今期で退任された7名の委員に知事から感謝状と記念品が贈られました。

海区委員会は、漁業者から選挙で選ばれた公選委員と学識経験者や一般公益を代表する知事選任委員で構成されており、今期は瀬戸内海海区15名、但馬海区10名の委員が就任されました。

なお、両海区委員会はこのあと県民会館で初委員会を開き、正副会長の選任協議が行われました。瀬戸内海海区は会長に山田 隆義氏、副会長に井上 仁氏、また、但馬海区は会長に吉岡 修一氏、副会長に川越 一男氏がそれぞれ就任されました。

第20期委員（順不同・敬称略）に就任された方は次の通りです。

【瀬戸内海海区】『公選委員』上村 広一（JF坊勢）▽小磯 富男（JF南あわじ）▽小溝 政二（JF育波浦）▽社領 弘（JF一宮町）▽田沼 政男（JF林崎）▽中澤 卓生（JF姫路市）▽東根 壽（JF淡路島岩屋）▽松本 力（JF高砂）▽山家 昇（JF由良）『学識経験委員』井上 仁（㈳播磨漁友会・JF岩見）▽日高 健（近畿大学）▽森 武美（県漁協女性連）▽山田 隆義（JF兵庫漁連・JF神戸市）『公益代表委員』伊藤 潤子(コープ神戸)▽武田雷介(元水技センター)

【但馬海区】『公選委員』磯田 和志（JF但馬）▽川越 一男（JF浜坂町）▽田畑 富治（JF浜坂町）▽寺川 恒明（JF但馬）▽濱邊 希夫(JF浜坂町)▽松本 斉(JF浜坂町)『学識経験委員』伊藤 清作(元JF竹野浜)▽眞野 豊(JF但馬)▽吉岡 修一（JF但馬）『公益代表委員』守山 公子（女性漁業士）。

また、今期で退任された委員（順不同･敬称略）は、【瀬戸内海海区】『公選委員』小西 正治（JF富島）▽炬口 正胤（JF洲本）▽吉田 證平（JF淡路島岩屋）『学識経験委員』戸田 氏懿（㈶県水振基）『公益代表委員』田和 正孝（関西学院大学）【但馬海区】『公選委員』伊藤 久一（元但馬沿漁協会）『学識経験委員』石田 孝一（JF但馬）の皆さんです。

恋のきっかけは海が見えるキッチン！
～シートクラブ料理教室で料理婚活開催～

JF兵庫漁連 広報部

8月26日（日）、兵庫県内で婚活事業を展開されている「婚サポ」とJF兵庫漁連シートクラブが協力し、「恋するキッチン」と題し料理婚活を開催しました。シートクラブは料理教室会場の貸し出しのほか、材料の提供、調理の指導等を行い、県内産水産物のＰＲに努めました。

参加者が調理したメニューは明石だこサラダ、明石だこコロッケ、カワツエビのペペロンチーノ、イワシのつみれ中華スープ、明石鯛とカワツエビの生春巻きの５種類。

県内在住の男性25名、女性25名、計50名の参加者のみなさんは、シートクラブから魚の下ごしらえのアドバイスを受けたのち、5班に分かれて調理をしました。タコの塩もみや、イワシの手開きなどは初めて経験された方が多く、みなさん四苦八苦しながら取り組んでいました。

参加者の皆さんは、できあがった料理で食事をしつつ、明石海峡を眺めてのフリータイム。話も弾んだようで、5組のカップルが誕生しました。料理婚活は調理作業を通じて具体的なイメージが湧き、相手のこともよく分かると評判でした。

今回は、シートクラブの普段の活動とは違い、異なる内容のイベントと併せて開催することで新しい魚食普及のスタイルが見出せました。

料理教室と婚活イベントの組み合わせ

料理は美味しく出来ました。

種苗生産現場と製網現場から資源管理等について見識拡大
～平成24年度淡路地区青壮年部連合会視察研修会～

淡路地区漁協青壮年部連合会

淡路地区漁協青壮年部連合会（中村 高治会長）では7月15日（日）、16日（月）に視察研修会を行い、独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所玉野庁舎（岡山県玉野市）と日東製網株式会社（広島県福山市）を訪れました。

まず訪れた水産研究所玉野庁舎では、キジハタ等の種苗生産現場を見学しました。

キジハタは、放流種苗の生残率や磯への定着性が強く、小型魚の再放流と合わせて資源管理に取り組みやすい魚種であることから関心が高まっています。

説明では、キジハタは孵化後の斃死率が高いことや、共食いを防止するための手間がかかるといった生産の難しさはあるが、天然魚を育てて産卵させ、約20万尾を種苗生産しているとのことです。

たくさんのキジハタが泳いでいました

また、放流サイズは体長7㎝以上で、漁港や魚礁に放流後、そこにしばらく居ついて順次近隣の磯場などへ移動するが、移動範囲も小さいので経費をかけて放流しても漁獲に結びつきやすく、漁獲した魚の市場調査では2～3割が放流魚、刺網による調査では5割が放流魚という結果が得られているとのことでした。

ただ残念ながら、独立行政法人化以降、岡山、香川、大分と共同して種苗栽培、放流・追跡調査を行っており、試験的に種苗配布を受けるのは難しいとのことでしたが、種苗生産現場の苦労と種苗生産と放流が資源管理の一端を担っていることについて見識を広めることができました。

説明を受ける中村会長ら参加者の皆さん

2日目に訪問した日東製網株式会社では、無結節網、モジ網の製造工程について見学しました。

無結節網は用途に応じて多様な糸で網を作ることができ、結節がないので目方が軽く、海水がよりスムーズに網目を通り抜けることから、海水による網の変形・吹き上がり現象が少ないとのこと。また、揚網中に結節部に擦られて魚が傷つくことが少なく、漁獲物の品質向上に寄与するほか、海苔網の場合は刈り取りがスムーズに行え、軽量なので取扱いが簡単など、メリットがあると説明を受けました。

また、モジ網は、主な用途はイワシやチリメンジャコを獲るパッチ網、稚魚や幼魚の生簀網などで、同社では編みあげた後に熱処理することで寸法を整え、縮みを防ぎ寸法が変わりにくい網を製造していました。このような製網技術の下支えにより、網地の目合いによる稚仔魚の保護や混獲の防止を適切に実施することができ、資源管理の取組においても重要であるという認識を深めることにもつながったと思います。

詳しい説明をしていただきました

他に、網を形成する多数のプロットを設定して条件を与え、網糸1本1本の動きを可視化する独自の網地形状シミュレーションシステム（NaLAシステム）も見学しました。このシステムは見ることが難しい水中の漁具全体像や、流向・流速による網成の変化を数値計算により三次元の動画として表示し、網容積や網到達深度、ロープへの荷重などの解析を行うことが可能で、新網等の設計段階から水中形状を予測・再現し、よれが起こりにくいなど操業条件に応じた最適な漁具を検討することが出来るというものでした。

今回の視察研修会には船曳、底曳、ノリ養殖に従事している参加者が多く、日頃は意識することのない網の製造過程の説明を興味深く聞きながら積極的に質問し、有意義な研修となりました。

『漁師さんになろう』五色町で漁協体験を実施しました！
～漁師さんの仕事を体験し漁業と水産について学ぶ～

洲本農林水産振興事務所

8月24日（金）から26日（日）の2泊3日の日程で、阪神間から参加した小学4年生～中学1年生の27名を対象に洲本市五色町都志で漁業体験が行われました。

この漁業体験は、社団法人兵庫県子ども会連合会が漁業への関心を高めてもらおうと企画し、JF五色町（播磨 孝次組合長）および同JF有志の煽グループ（柳 明良会長）の協力のもと、独立行政法人国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金の助成を受けて2年ぶりに実施されたものです。

体験初日は地引網体験でした。播磨組合長から地引網の説明があった後、旧都志海水浴場に移動し体験しました。網に入っていたのはマダイ、チヌ、マダコなどで、子どもたちは手につかみ大喜びでした。その後、県洲本農林水産振興事務所から漁師の仕事や、魚を増やす取組みなどについて説明し理解を深めてもらいました。

みんなで頑張って引きました

2日目は漁船に乗り込み、タコつぼや刺網を引き揚げた後、陸に戻って網はずしまでを体験しました。刺網ではキスやベラ、コノシロ、オニオコゼ、コチなどが獲れ、ここでも子どもたちは大喜びでした。午後からは獲れた魚を用いて、漁師さんに魚の捌き方を教えてもらいながら調理実習に挑戦しました。刺身、天ぷら、すまし汁など、自分たちで獲って調理した魚を食べて“美味しい”と大満足の1日でした。

貴重な体験となったようです

3日目は「海上交通ルール」など漁師さんの仕事に関わる話を聞いた後、ロープワークに挑戦しました。はじめはうまく結べずに苦戦していましたが、漁師さんに教えてもらい結べるようになると、得意そうに何度も解いては結ぶことを繰り返す子どももいました。その後、「漁師さん検定」の問題に挑戦しましたが、実技（漁業体験やロープワーク）の方が得意な子の方が多かったようです。最後に班ごとに3日間のまとめに取り組みましたが、みんな思い思いに印象に残ったことや学んだことを元気よく発表していました。

播磨組合長も参加したロープワーク体験

直に漁師さんの話を聞き、漁船に乗り込み、魚に触れるという機会は皆無に等しい子ども達には、貴重な体験としてすばらしい夏の思い出となったのではないでしょうか。一人でも多くの子どもが漁業や魚に関心を持ち、少しでも魚を食べる機会が増えるきっかけになって欲しいものです。

JF森・JF赤穂市・JF一宮町で“命を守る運動”海上安全講習会開催！ ～漁業者がライフジャケットの必要性を実感～

JF・系統団体が各地で開催している“命を守る運動”海上安全講習会がこの度、３JFで実技等の体験を交えて行われました。その内容は次のとおりです。

【8月24日（金）：JF森（森 義政組合長）】

漁業者・関係者ら約45人が参加しました。はじめに神戸海上保安部 航行安全課 加藤 一也専門官より「海難防止について」と題して、近年増え続ける海難事故について講習がありました。日常の慣れによる“見張りや注意不足”が主な事故原因とし、改めて注意喚起がなされました。続くライフジャケットの作動体験で、参加者は持参した自動膨張式ライフジャケットの膨張を体験し、ボンベ交換等のメンテナンスも行いました。なかには、既に膨張して使えなくなったものを普段の操業時に着用していた方や、錆び付いて今にも破裂しそうなボンベを使用していた方も見受けられ、参加者は日常のメンテナンスの重要性を実感できたようです。

JF森での講習会の様子

メンテナンスも行いました。

【8月29日(水)：JF赤穂市(大河 優組合長)】

50名を超える参加者が座学と港内での救助訓練などを体験しました。

はじめに「海難防止について」と題し、姫路海上保安部 交通課 八幡 恭典専門官から海難事故の発生状況や事故防止策・航法や正しい灯火及び形象物について講演があり、参加者は安全な操業・航行について再確認をしました。次に神戸運輸監理部 船員労働環境・海技資格課 筒井 宣利課長によりライフジャケット着用の重要性や、作動体験とメンテナンス等についての講演がありました。ここでも参加者が持参した膨張式ライフジャケットが、既に作動したものや、錆・破れ等があるものが散見され、日常点検の重要性を再確認しました。

この後、会場を屋外に移し、姫路海上保安部 警備救難課救難係 龍野 高史係長 を講師にサバイバル訓練を実施しました。参加者が実際に海に飛び込み、様々なタイプのライフジャケットを体感するもので、併せて、講師から落水者の救助法や事故現場の悪条件下で生き抜く術についても説明がありました。講師からは「海難事故に遭った時、ライフジャケットを着けていないと、自分の命すら守ることはできず、家族や仲間にも悲しい思いをさせてしまう。また、捜索やそれに伴う休漁等、多大な迷惑をかけることを認識しましょう」と注意喚起がなされました。

JF赤穂市での講習会の様子

落水者の救助法も学びました

【9月1日（土）：JF一宮町（社領 弘組合長）】

ここでは実技を中心とした講習会が行われ、約60名が参加しました。講習は神戸海上保安部 警備救難課 樫原 毅専門官をはじめ４名の講師が指導し、訓練用マネキンを使った人工呼吸や心肺蘇生など救急法を体験したほか、屋外ではサバイバル訓練を実施しました。サバイバル訓練では神戸海上保安部 潜水士の補助のもと、参加者の一人にライフジャケットを着けないで落水したらどうなるか体験してもらいました。若い人でも1分間の立ち泳ぎもままならない状態となってしまい、“海に落ちる＝死”ということを目の当たりにしました。その後、同保安部警備救難課救難係 柳 兼一係長により様々なライフジャケットや救命具について、それぞれの着用方法や着用時の注意点のほか特徴等について、サバイバル訓練を体験した人へのインタビュー等を交え説明を頂き、参加者は改めてライフジャケットの重要性を確認したようです。

人工呼吸の体験の様子

ライフジャケットの効果を体験

事故を未然に防止するため
“命を守る運動”「海上安全講習会」を県下各地で開催しております。

（写真はJF兵庫漁連が開発した浮力合羽の体験の様子）

～講習会の開催申込みは下記団体まで～

この取組みは、平成22年1月のJF室津を皮切りにJFや関係団体を対象に行っており、海難事故対策・ライフジャケット着用推進等の内容で開催しています。（この模様は本誌「拓水」で適宜紹介しています。）

講習会開催についてのお問い合わせは
ＪＦ兵庫漁連指導部（代表）まで
TEL ０７８－９４０－８０１３

主催　県内ＪＦ・ＪＦ兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合
（公財）ひょうご豊かな海づくり協会・（財）兵庫県水産振興基金
協力　神戸運輸監理部　神戸海上保安部　姫路海上保安部

神戸ビーフ 香港へ初輸出

神戸肉流通推進協議会（事務局：JA全農兵庫畜産部）は７月18日、「神戸ビーフ香港に向けての初輸出」の出発式をホテル日航関西空港11Ｆ「ジェットストリーム」で開催しました。今年２月、マカオへの輸出開始以降、近隣の香港からも熱烈なオファーが続出しており、マカオへの初出荷を手掛けた輸出元のエスフーズ株式会社、輸入先の香港和牛達人有限公司の尽力により、香港への初輸出を実現することができました。

式典には約100人の関係者が出席し、神戸肉流通推進協議会の上羅堯己会長が「神戸ビーフを世界の方々に食してもらう機会がまた一つ開かれ、関係者の皆さまにお礼申しあげます。今後とも神戸ビーフ発展のためにご協力を賜ります」とあいさつ。また、エスフーズ株式会社の村上社長、和牛達人有限公司の吉田社長、香港インターコンチネンタルホテル「日本料理ノブ」のエグゼクティブシェフのエリック氏が出席し、上羅会長、平井力副会長、兵庫県の吉本知之副知事らと一緒にテープカットを行いました。続いて神戸ビーフの試食、出発するジャンボジェットの前での記念撮影を行いました。

ジャンボジェット前で香港への輸出成功を願う関係者

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

ラインの館で サマーコンサートを開催しました

７月６日、神戸市民生活協同組合では、ラインの館において「サマーコンサート」を開催しました。このコンサートは、日頃異人館を訪れる機会の少ない方々にも音楽を通じて異人館により親しみを感じていただこうという企画で、大変ご好評をいただいています。

今回はフルート、バイオリン、チェロのアンサンブルで、ハイドンの「ロンドントリオ」、モーツァルトの「六つのウィーンソナチネ」のほか、独特な奏法が印象的なヴィラロボスの「ジェットホイッスル」など、多彩な曲目が演奏されました。

参加者の方々からは、「うっとうしい梅雨空の気分を晴らしてくれる、素晴らしいひとときを過ごさせていただき、喜んでおります」「それぞれに素晴らしい演奏で、一楽器ごとに聴いたり三つの楽器のハーモニーを聴いたりして楽しめました」などの感想が寄せられました。また、ラインの館については「生きた建造物の使い方をされていて嬉しいです」「異人館という日常とは異なる空間に身を置けてよかったです」といった多くのお声をいただきました。

ラインの館は無料開放異人館であり、地域の方々の絵や写真など作品展示も常時行っています。庭の美しさにも定評がありますので、ぜひたくさんの方々に訪れていただき、館の魅力を知っていただきたいと思います。

熱演に聴き入る参加者の方々

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

旬に想う

写真と文
遊方子

秋の七草

◆洋の東西を問わず「七」は聖なる数字と考えられている。西洋では旧約聖書『創世記』にいう「神は六日間で天地を創造し七日目を聖なる安息日とした」を拠り所とし、東洋では古代中国の時代、北極星と北斗七星を季節を知る指標とし「七」を信仰の対象として特別な数と考えた。七月七日を七夕と称し、星を祭り七種の花を供える。山上憶良が七種の花に拘ったのも、そうした理由からだろう。全て食用の「春の七草」と違って『秋の七草』は、眺めて楽しむ六種の草と一種の樹木を選んでいる。ハギは紫紅色の花が群れ咲くマメ科の落葉低木であり、クズも根元が木質化するため樹木だと考える向きもあるようだ。

◆オミナエシは初秋に黄色の花をつけ、群落になれば集団の美しさが見事である。だが、切り花にして室内に置かない方がいい。何故なら、水に挿すと独特の異臭に難儀させられる。漢名で敗醤（ばいしょう）というが、腐った醤（ひしお）がどの様なものか不明ながら、水腐れのオミナエシには閉口したことを覚えている。もっと香り豊かな美しい花が、幾らでもあるのに何故七草に選ばれたのだろう。晩秋に地上部は枯れ、地中の太い根茎で越冬する。寒さには滅法強い多年草で、春にはキクの冬至芽に似た若い芽が勢いよく伸びてくる。

◆香りを楽しむならフジバカマで、刈り取って乾燥させるといい。七草のうち、唯一の外来種で中国を原産地とし、古くから庭園で栽培し「日本書記」にも出ている。いつか逸出して秋の野草になったが、名前の割には現物を見ていない人が多いという。筆者は、数年前に六甲高山植物園で苗を求めた。鉢植えで楽しんで、のちに菜園の隅へ下ろした。地下茎によって畝から畦へと進出、盛んに殖えており環境への順応性がとても良い。絶滅危惧種だとは思えない。

◆ススキは穂が獣の尾に似る所から、別名を尾花という。神河町の砥峰高原は一面のススキの大草原で、銀色に波打つ眺めが実に壮大で素晴らしい。大河ドラマや映画のロケ地になった。歴史を辿ると明治の末、旧陸軍が軍馬の放牧場にするため強制的に買収した事で注目を浴びている。しかし牧場に不適と判り競売に掛けられ、砥峰高原は地元の川上地区が当時の六千円で落札、レジャー施設が計画されたが実行されず。新芽の成長を促す山焼きによって今の景観が保たれている。逆光に映える尾花は独特の美しさだ。ナデシコやキキョウは里山や河川敷で、時期に花をつけるが、それらの姿が消えつつあり、絶滅するのではと危惧されている。七草が揃わなくなると、文化的な損失はとても大きい。

チコリの花

大輪田塾だより

平成24年度大輪田塾修了論文発表会

認定審査委員から質問を受ける塾生

大輪田塾での研修の総仕上げというべき平成24年度大輪田塾修了論文発表会が、8月21日(火)兵庫県水産会館で開催され、山田 隆義塾長をはじめ、運営委員や県・漁協系統役職員ら約40名が出席するなか、大輪田塾6期生5名は、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表しました。

全員の発表後行われた講評では、運営委員を代表して県水産技術センター 反田 實所長から発表者全員の論文の単位が認定され、一人ずつの論文に対し詳しく評価がなされました。また反田所長の「さまざまな課題に取り組まれた皆さんの発表内容は大変優秀なものであった。緊張したと思うが、落ち着いて発言されており、すばらしい発表であった。」との言葉に、発表者はこれまでの苦労が報われたようでした。

修了論文発表の様子

【修了論文認定審査員(敬称略)】
山田 隆義塾長(JF兵庫漁連)・反田 實運営委員(県水技センター)・
突々 淳運営委員(JF兵庫漁連)・戸田 氏懿運営委員(兵庫県水産振興基金)

磯端漁業から見える未来の漁業 JF坊勢：小林 典広　指導員：内田 健二（県姫路農林水産振興事務所）	柴山ガニを通じて考える、松栄丸の新たな一歩 JF但馬：寺川 寿人　指導員：瓢 雄介（県但馬水産事務所）
魚の価値向上を目指して JF津名：仲野 精二　指導員：都倉 由樹（県洲本農林水産振興事務所）	漁業における経営分析の必要性について JF兵庫信漁連：村田 延郎　指導員：榎本 陽子（県水産課組合指導係）
佐野のワカメ養殖について JF津名：保田 浩良　指導員：妹背 秀和（県洲本農林水産振興事務所）	

表紙の言葉

ベニズワイガニ初セリ

今漁期のベニズワイガニカニカゴ漁が始まりました。

その名のとおりベニ色をしたこのカニは、関西では香住漁港でのみ水揚されており「香住ガニ」としてブランド化しＰＲされています。漁獲量は昭和50年代から増加しましたが、昭和60年頃を境に減少に転じたため、漁業者は自主休漁やカゴの工夫など様々な努力で資源保護に努めています。

写真のように並べられたベニズワイガニは、浜が紅色に染まり秋の訪れを感じさせる光景であるとともに、漁業者の努力の賜物でもあります。

このような光景がこれからも見られますように……

拓水 TAKUSUI 9 September

発行：財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号　兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331　FAX 078-919-1336